
早来中学校校舎再建 に関する説明会

平成31年3月26日

取り組み状況

平成31年1月9日～3月26日

①説明会 延べ15回

議員説明会1回、教職員説明会1回、PTA/コミスク説明会1回
住民保護者説明会7回、地区説明会5回（追分/安平/早来）

②考える会 6回

学校について、基本コンセプト、防災対策、機能検討等

③広報 3回（月1回）

広報あびらへの折込（全住民に対して取り組み状況を周知）

④アンケート 8回

説明会毎7回、小中保護者配布1回、教職員1回

住民/保護者/教職員説明

課題

- ◎説明会参加者が少ない
- ◎直接伝える機会が少ない

解決

- ◎新年度のPTA総会等で説明の時間をもらう（20分程度）
 - 4月16日(火) 遠浅小PTA総会
 - 4月18日(木) 安平小PTA総会
 - 4月19日(金) 早来小PTA総会
 - 5月7日(火) 町教研総会（教職員対象）
- ◎自治会にて説明を行う（5分程度）
- ◎現場の先生と意見交換を行う
- ◎児童生徒へのアンケートを行う（説明は授業時間をもらうのが困難）
- ◎SNS等を使った発信を行う
 - あびらチャンネル・・・取り組み状況の報告
 - SNSの作成発信・・・公式Facebook、公式Twitter
 - ※管理は教育委員会、管理者は総合教育専門員

あらためて
「小中一体校舎」
「義務教育学校」
について説明します

平成30年9月6日 北海道胆振東部地震



早来中学校の校舎が使えない

早来小学校も老朽化が進む



**早来中学校再建にあわせて
小中一体の校舎を建設**

義務教育学校

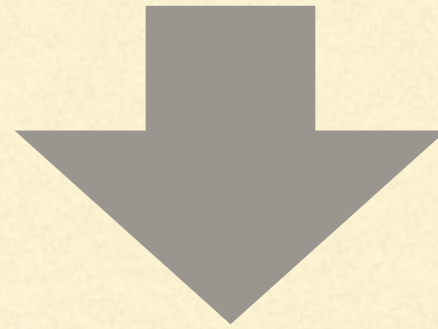
小学校の築年数



学校施設改築の平均サイクルは42年（全国）

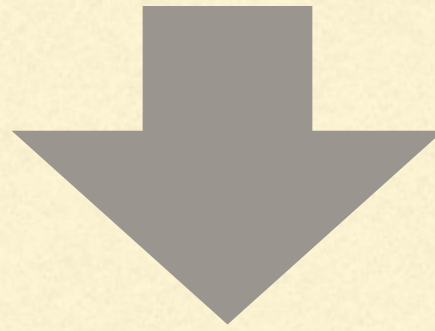
※長寿命化で対応

早来中学校の校舎が使えない



- 案1) 改修して使用 ⇒ 老朽化も進み改修費用がかかる
 - 案2) 同じ場所に建替 ⇒ 高台にあり地盤の被害が大きい
 - 案3) 町内別場所で建替 ⇒ 市街地に広い町有地がない
 - 案4) 小学校隣に建替 ⇒ グラウンドがなくなる
 - 案5) 中学校のみ建設 ⇒ 小学校建替時に経費がかかる
小中一環教育が非効率
-

早来中学校の校舎が使えない



案1) 改修して使用 ⇒ 老朽化も進み改修費用がかかる

改修ではなく建替とする

案2) 同じ場所に建替 ⇒ 高台にあり地盤の被害が大きい

別場所に新築で建て替える

早来中学校の校舎が使えない



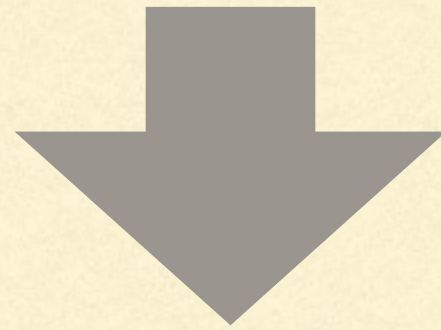
- 案3) 町内別場所で建替⇒ 市街地に広い町有地がない
案4) 小学校隣に建替 ⇒ グラウンドがなくなる

新たに土地を取得する

- 案5) 中学校のみ建設 ⇒ 小学校建替時に経費がかかる
小中一環教育が非効率

小中一体型校舎とする

早来中学校の校舎が使えない



早来中学校の再建にあわせて 小中一体型の校舎を建設

- 案1) 小中一体型の小学校・中学校（既存の学校制度）
⇒ デメリットがなくメリットは少ない
- 案2) 小中一体型の義務教育学校
⇒ デメリットの懸念あり（工夫により改善可能）
⇒ メリットが大きい（教育内容/教員配置/建設費）

小中連携、小中一貫、小中一貫教育制度の関係

小中連携教育

小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

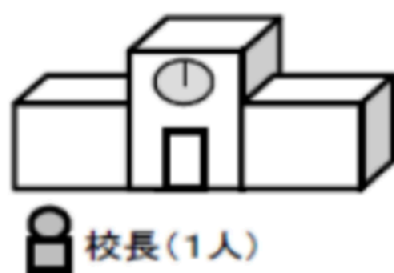
小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育を目指す教育

①義務教育学校

・新たな学校種(一つの学校)
⇒一人の校長、
一つの教職員組織

修業年限:9年
(前期課程6年+後期課程3年)

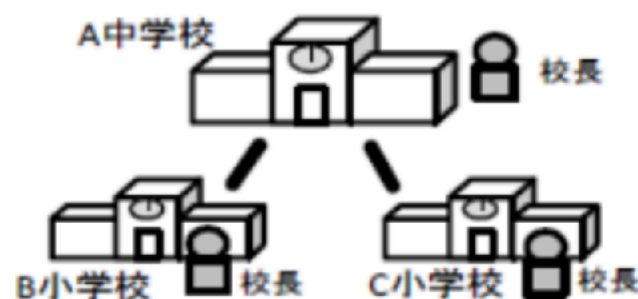


新しい学校

小中一貫型小学校・中学校

・組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態
⇒それぞれの学校に校長、教職員組織

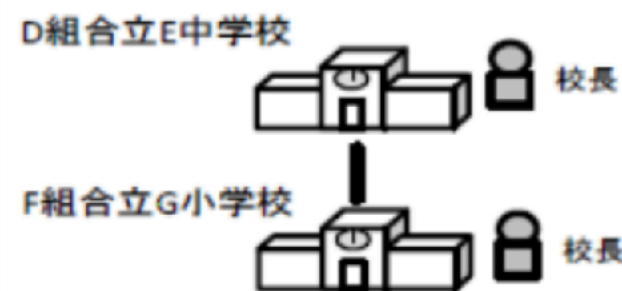
②併設型小学校・中学校 (同一の設置者)



※一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件

例・総合調整を担う校長を定める
・学校運営協議会の合同設置
・校長等を併任

③連携型小学校・中学校 (異なる設置者)



※併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備すること

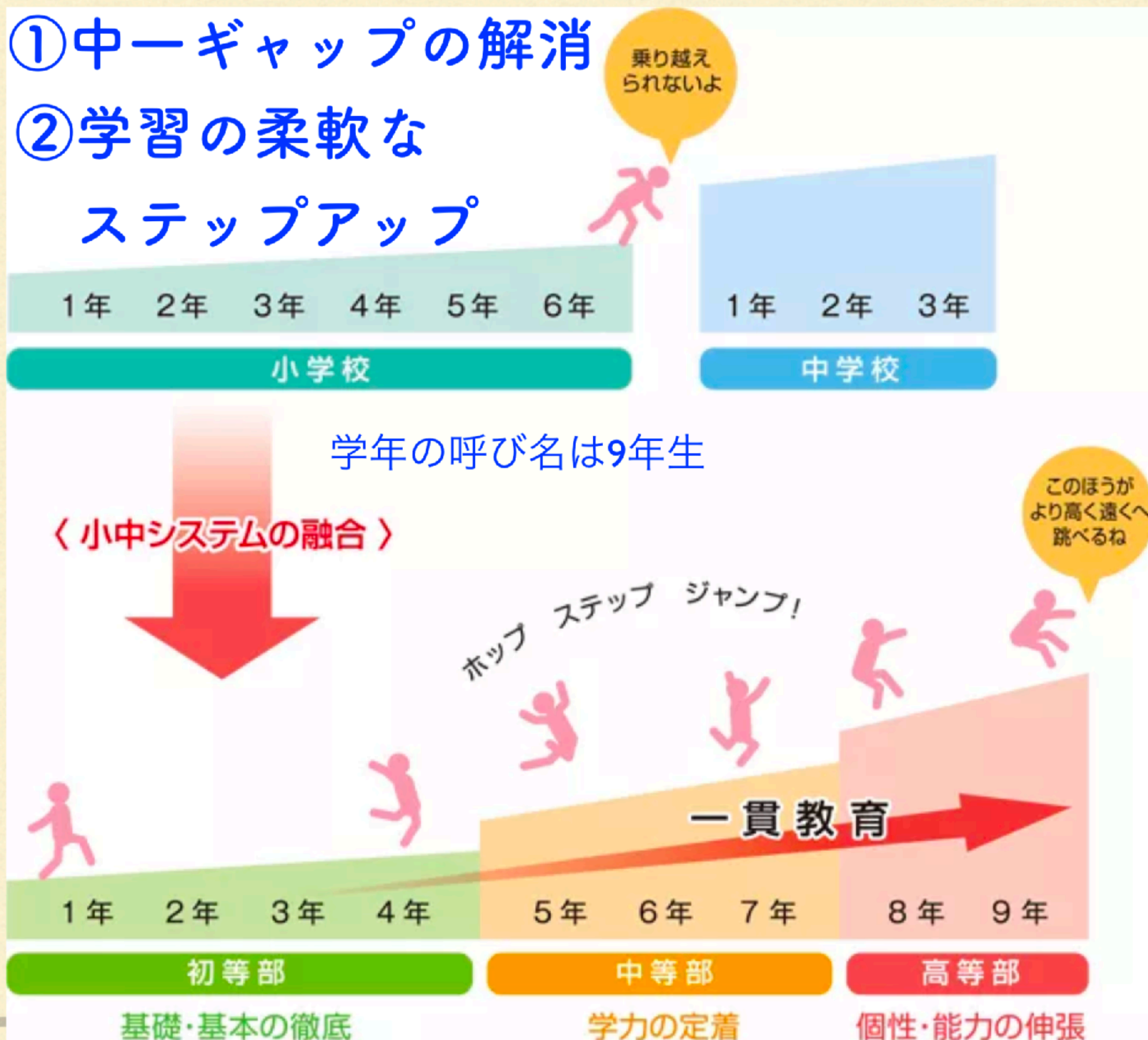
※①②③いずれも施設の形態は問わない。

追分は「小中一貫型小学校・中学校」の『②併設型小学校・中学校』

Q5 義務教育学校で何のメリットがあるの？

A2 ①中一ギャップの解消

②学習の柔軟な
ステップアップ



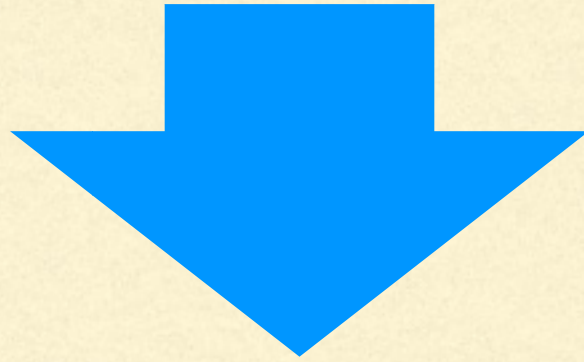
	早来小学校 存続/分離	小中一貫校	
		小中一貫型 小学校/中学校	義務教育学校
小中学校の教育内容連携	△	○	○
小中学校の交流	△	○	○
教科担任の乗り入れ	△	○	◎
先生の人数（加配）	×	×	◎
建設費（総額/補助率）	×	○	◎
建物の充実（教育環境）	▲	○	◎
今後の学校のあり方	▲	○	◎

	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度
中学校	10,484	10,404	10,325	10,270
小学校	20,601	20,313	20,095	19,892
義務教育 学校	—	22	48	82

平成35年度以降

義務教育学校100校、小中一貫校525校（文部科学省）

なぜ早来小学校と一緒にするの？ なぜ義務教育学校なの？



- 施設の耐用年数が限界に近づいている
 - 学校の①教育の充実②教育環境の充実
③建設コストの効率化では、小中一貫の義務教育学校が優れている
 - 全国的に新設校は小中一貫の義務教育学校が増えている（今後、さらに増加する）
-

早来中学校の校舎が使えない

早来小学校も老朽化が進む

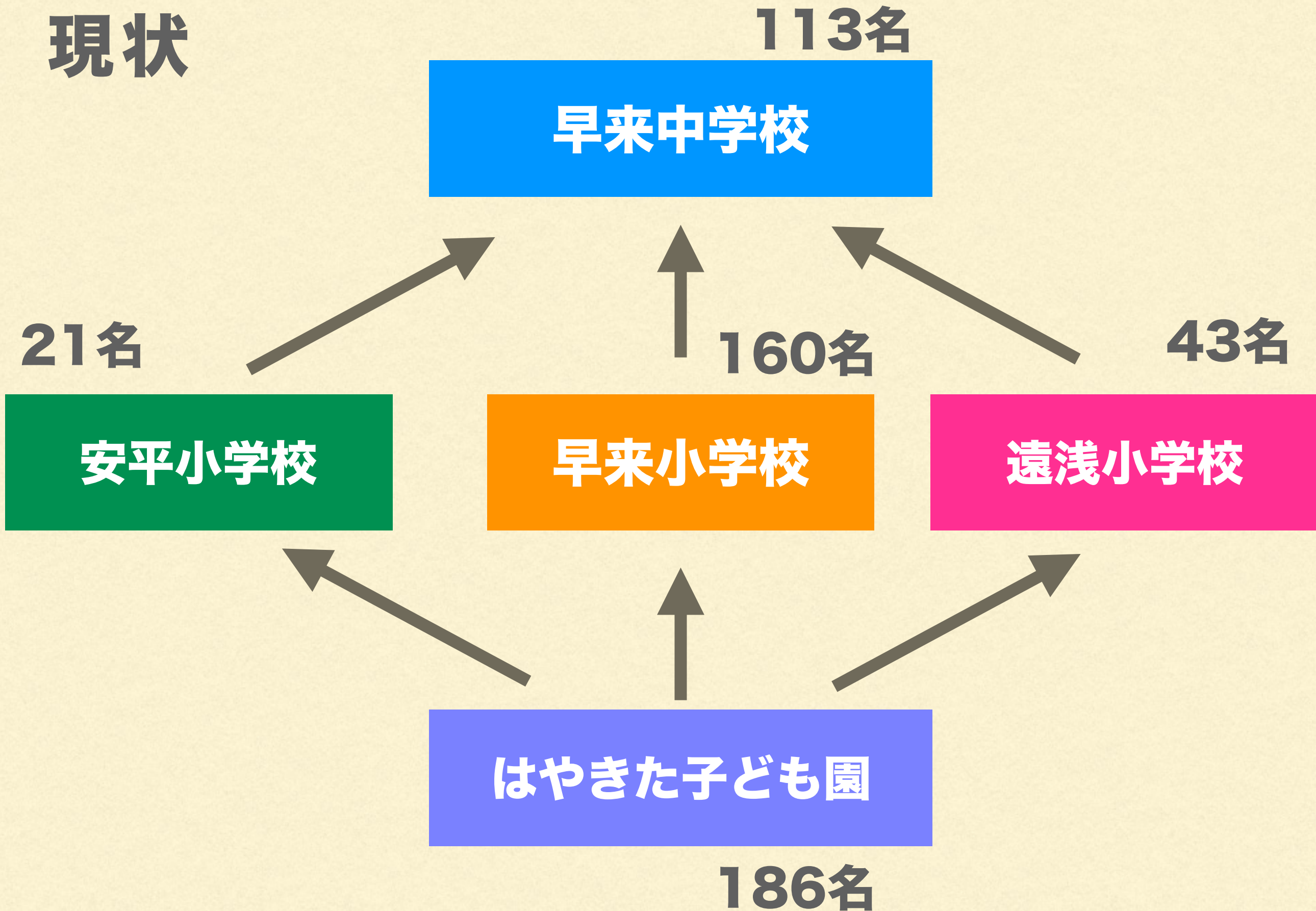


**早来中学校再建にあわせて
小中一体の校舎を建設**

義務教育学校

**安平小学校と遠浅小学校は
どうなるの？**

現状



新設後

新築（義務教育学校）

273名

早来中学校
早来小学校

築40年

築40年

安平小学校

遠浅小学校

21名

43名

希望しても行けない（現状）
※子ども園と中学校は同じ

同じ早来地区内で
教育環境に大きな違いが出る

新築（義務教育学校）

**早来中学校
早来小学校**

築40年

築40年

安平小学校

遠浅小学校

21名

教育環境を選択できる

43名

**同じ早来地区内で
教育環境に大きな違いが出る**

＜ 学校選択制 ＞

2021年4月導入を目処に検討

検討委員会の設置

【 検討委員（案） 】

学校	⇒	早小、安平小、遠浅小、子ども園
コミスク	⇒	コミスク代表1名
PTA	⇒	PTA代表1名（子ども園は2名-地区1名）
地域	⇒	自治代表1名、PTAのOB
委員会	⇒	学校教育GL、総合教育専門員

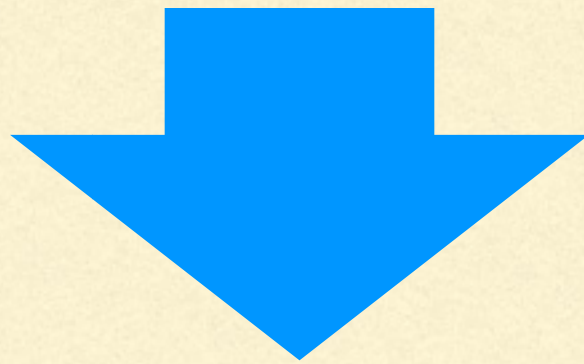
【 流れ（案） 】

1回目（4月）	・・・	顔合わせ、意見交流（課題挙げ）
2回目（5月中旬）	・・・	課題検討、アンケート作成
3回目（5月下旬）	・・・	アンケート作成、具体的方策
4回目（6月中旬）	・・・	アンケート結果考察、具体的方策
5回目（7月上旬）	・・・	学校選択制概要検討
6回目（7月下旬）	・・・	学校選択制概要決定

安平小/遠浅小統廃合について

現時点では存続

住民/保護者の意向を参考に教育委員会で判断



学校選択制導入により地域の学校に進学を希望する
児童が10名程度になった場合、何らかの判断を行う

新しい学校について

社会が変わっても大切にしたいもの
時代にあわせて必要になってくるもの

安平町では **学校って何？**
学校ってどんな場？

どんな学校にしたいのか？

どんな未来をつくるのか？

新しい学校を考える会

『保護者・地域住民と学校を考える会です』

<趣旨>

新しい学校を保護者、地域住民等と一緒に考え、広く意見を交わし、学校づくりに生かす

<対象>

早来地区小中学校保護者、地域住民、趣旨に賛同する方

<内容>

- ・新しい学校のコンセプトづくり
- ・新しい学校への意見、提案

※教育委員会への提言や意見で決定権はありません

<頻度>

3月までは月2回程度、4月以降は年5～6回

自分が“世界”と出会う場所

スポーツ

夢

テクノロジー

本物

学び

価値

コミュニティ

考え

みんなの学校

自然

地域

文化

人

『 自分が“世界”と出会う場所 』

安平町の

「自然」 「地域」 「文化」 「人」 に触れ、

支え、支えられる中で、

学校を通して 「スポーツ」 「テクノロジー」 や

「異年齢、多世代」 の人達、

たくさんの 「本物」 と出会い、

さらに

「色々な考え」 「多様な価値観」 「多くの学び」

「夢」 とともに出会い、

“世界”に生き、“世界”へと羽ばたいていく

自分が“世界”と出会う場所

スポーツ

夢

どんな機能

価値

コミュニティ

校

考え

自然

地域

文化

人

**第4回
新しい学校を
考える会
平成31年2月16日**



**「世界に出会う
場所」の機能を
挙げる**

健康・スポーツ

- ・ 体育館（アリーナ）
- ・ 保健センター
- ・ 学食

文化

- ・ 音響設備（ホール）
- ・ 図書館
- ・ 博物館
- ・ 和室
- ・ Café
- ・ 農耕
- ・ 乗馬部

事業施設

- ・ 公民館
- ・ ボランティアセンター
- ・ 社会福祉協議会
- ・ こども園（5歳児）
- ・ 学童/児童館

学校（施設充実）

- ・ 快適な学習環境
- ・ 余裕のある教室数
- ・ 広さ可変な教室
- ・ 大画面教室

お店体験

防災拠点（宿泊）

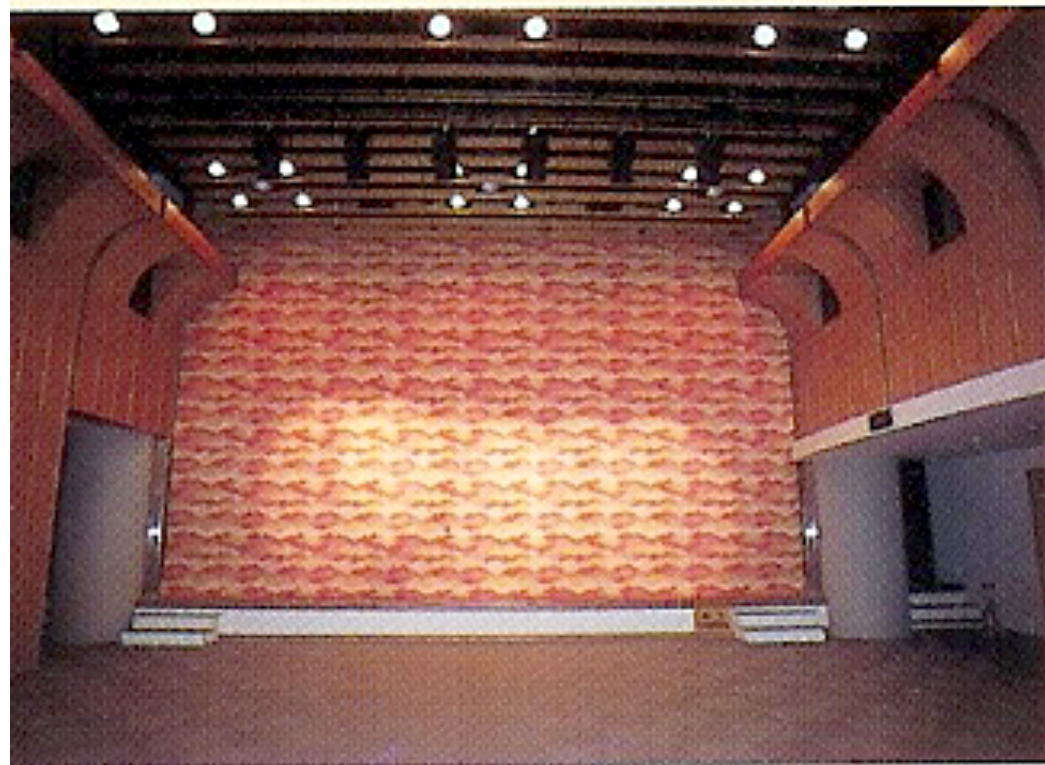
防災拠点（宿泊）

空間

ライフライン

居場所

- ・ 避難所開放の際、多様な空間が必要
（和室、教室、調理、荷物置き）
- ・ 避難所でのプライバシー確保
- ・ 防災倉庫（拠点）の設置
- ・ 電源の確保→エネルギー問題と関連
（自家発電、ディーゼル発電機）
- ・ 水の確保（井戸の採掘）
- ・ 子どもの遊び場所確保
（子ども園と学童が設置されると解消されるか）

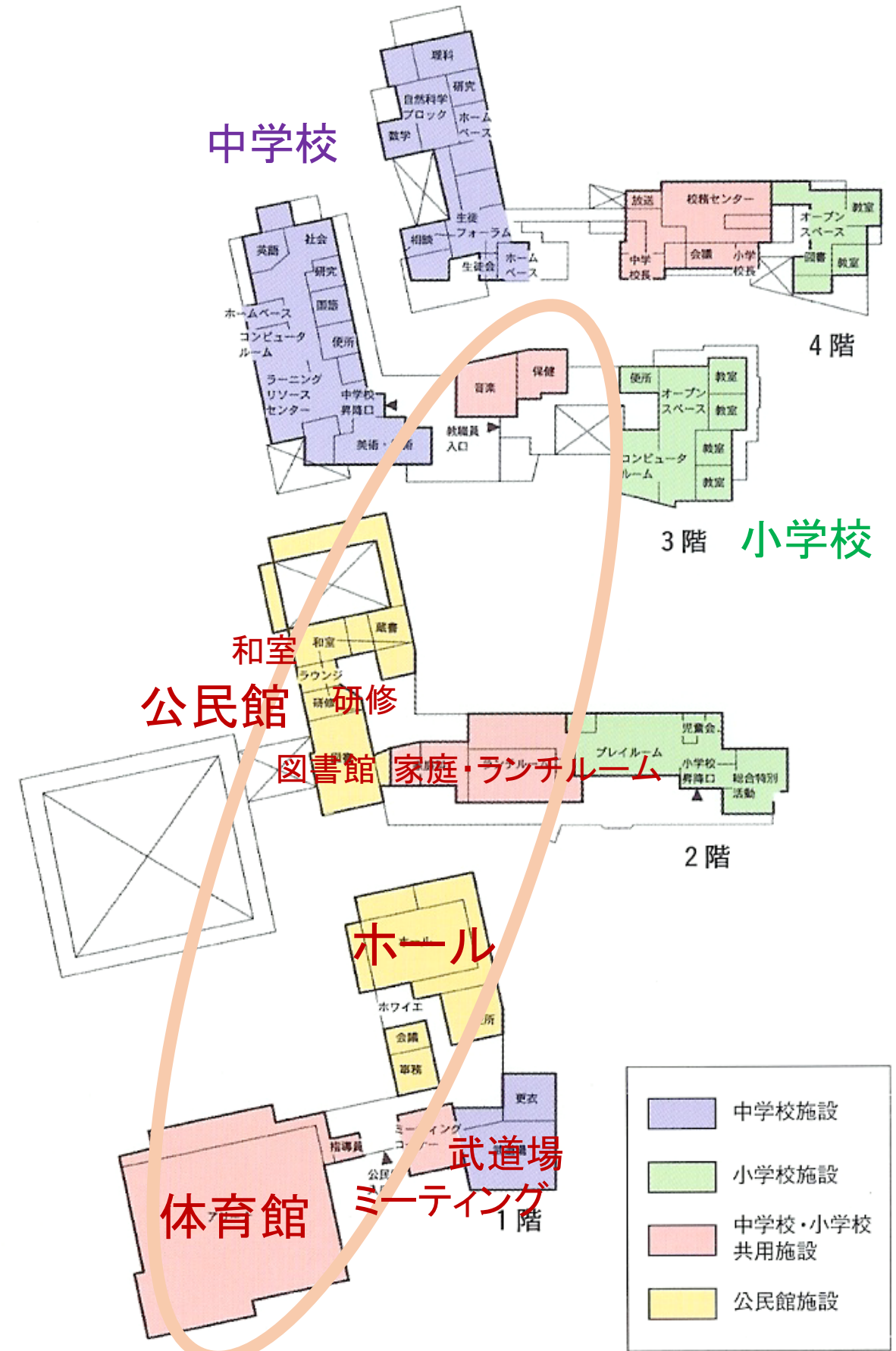


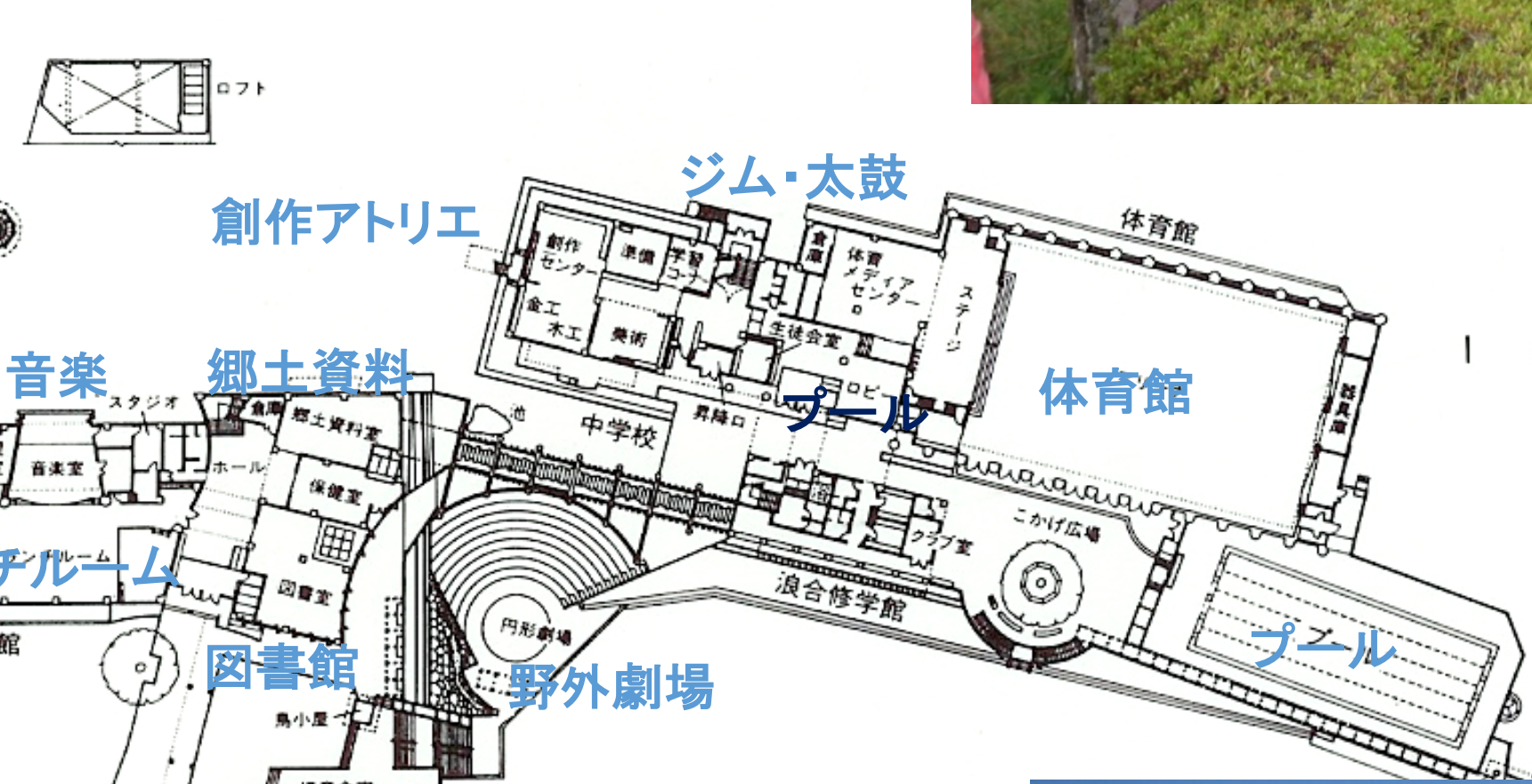
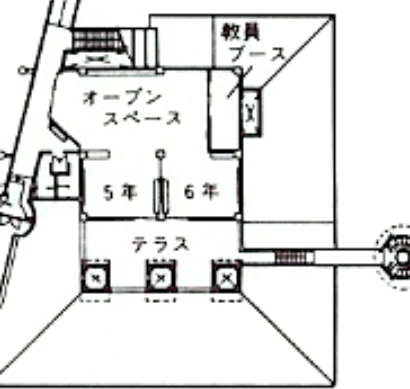
公民館ホール。児童・生徒も活用する。

複合教育文化施設

「アークス」All Persons' School

南砺市立利賀小学校・中学校・ホール・公民館（一時は教育委員会事務局も）(富山) 人口：1,000人

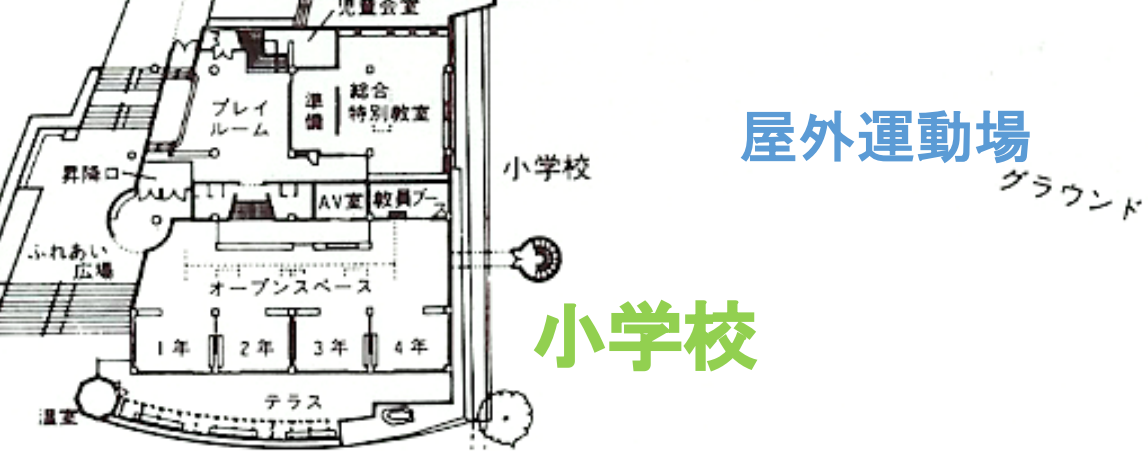




高齢者コミュニティセンター



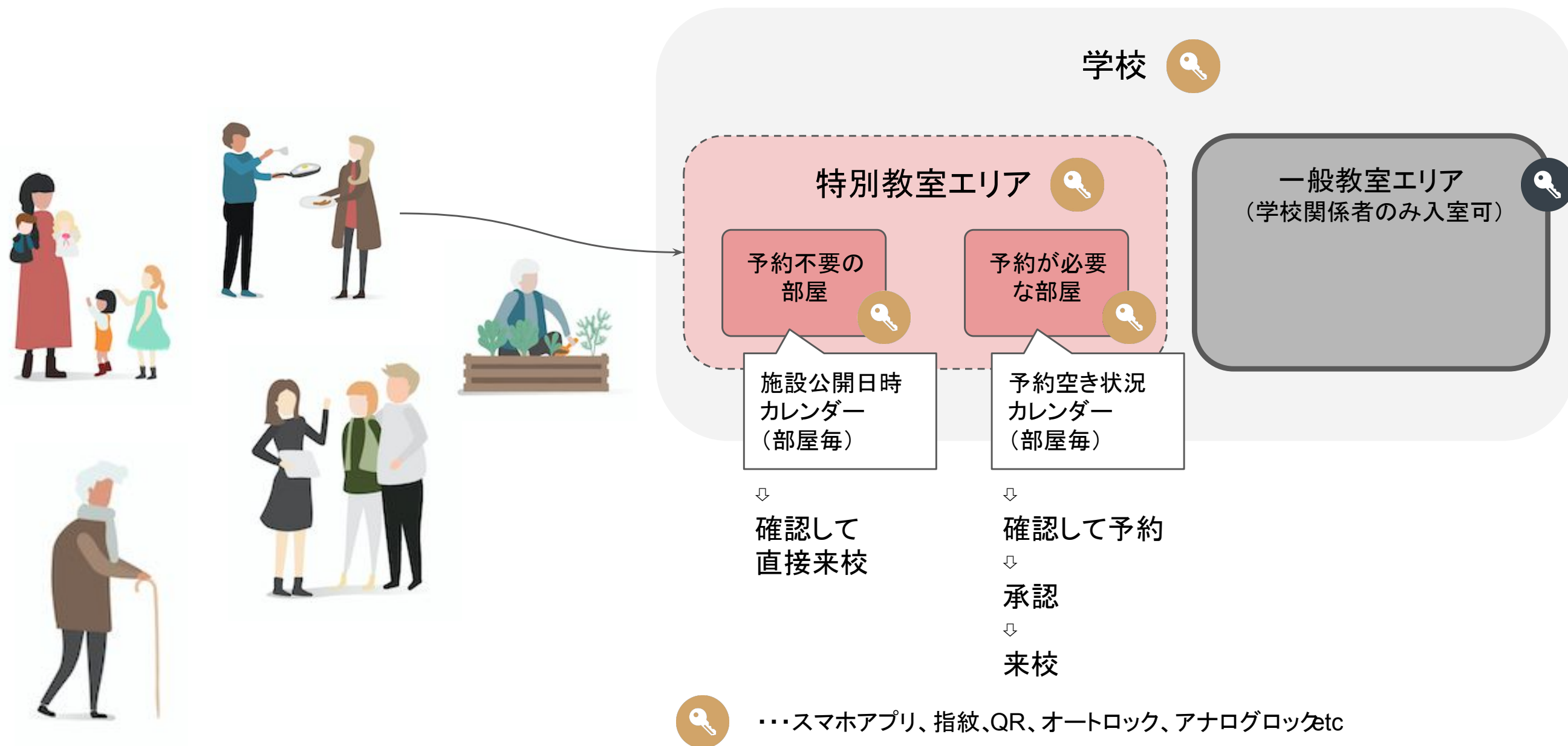
村役場



浪合村立浪合小中学校(長野)

Ph1.

学校がまちに、まちが学校に。学校施設を、町民が使える



Ph2.

まちの情報、学校の情報 that 町民だれにでも届く

それぞれの権限の
投稿アカウントを配布



企業投稿

役場投稿



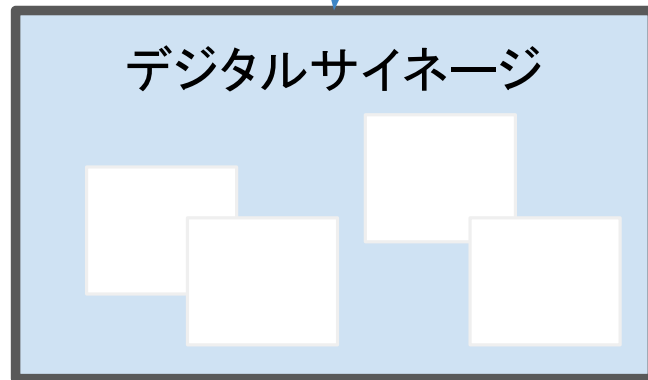
サイネージのデータベース

まちから: 議会、町内会、祭り、健康診断
学校から: 運動会、文化祭
企業から: 見学、イベント、特産品、求人

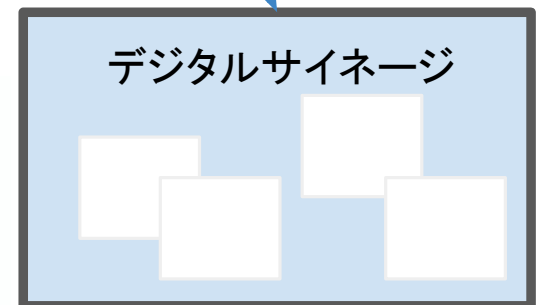
配信

配信

デジタルサイネージ



デジタルサイネージ



Ph3.

学校の情報を、親にも子どもにもダイレクトに知る まちの情報を、子どもも知る



まちからの情報:

議会、町内会、祭り、健康診断

各家庭の
PCやタブレット

企業からの情報:

見学、イベント、特産品、求人

学校に関する情報:

時間割、持ち物、
行事スケジュール、
授業の記録

(基本計画の目標を入れる)

<基本計画について>

3月・・・計画目標（何をつくる）

4月・・・配置計画（どこにつくる）

5月・・・平面計画（教室どうする）

6月・・・基本計画（全部の計画）

<設計者選定>

4月・・・募集要項作成

5月・・・募集 → 7月業者選定

＜新しい学校を考える会＞

日時：4月25日(木)18時30分～

場所：町民センター中会議室

内容：基本計画骨子検討（計画提示）

参加：どなたでも（小中学生、町外者）

自治会、PTA役員、コミスク、

少年団、サークル、町内団体

<保護者/住民/教職員説明会>

早来地区：5月9日(木) 町民センター

時間：8時30分～

内容：基本計画骨子 (案)
